

かわさき教育プラン第3期実施計画の今後の進め方についての意見書

1. 教育プラン第3期実施計画策定に基づく取組を進めていくにあたり、留意すべきことや期待していること	委員
<ul style="list-style-type: none"> ・計画推進の前提は、子どもが安全・安心で学べる教育環境である。教育環境面で学校間格差が生じないための、教育予算の確保。 ・子どもが学ぶことに専念できるよう、ヤングケアラーなどコロナ禍によって一層拡大した教育格差をなくすための具体的な支援。 ・Society5.0の到来を見据え、本市の教育の質を高めるための、総合教育センターを中心とした先進的な教育研究と実施、検証。 ・子どもたちが将来、地域社会の課題に主体的に取り組める資質・能を育成するための、行政、地元企業、地域の連携による具体的な環境づくり。 ・現在の教育課題と第3期実施計画との関係を、教員、保護者、市民にわかりやすく伝えるための広報、周知の仕方。 	岩木委員
<p>十分に検討してきた実施計画ではあるが、コロナ禍の長期化、急速なデジタル化、国際的な動向や我が国の位置などを考えると、今後3年の間にも著しい変化がある可能性がある。そこで実施計画については丁寧に推進していただくと共に、こうした変化が感じられた際は、個別の実施計画については、柔軟な転換があってもよいのではないかと。計画の実施はもちろん、もし転換がある場合は、全ての実施計画の源である「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」や「自主・自立」「共生・協働」を常に掲げて邁進していくことが重要であると思われる。今後、個別には判断に迷う事態も多々あると思われるが、どのような時にも基本理念等を忘れずに進めていくことが、継続と発展につながるのではないかと。</p>	高橋委員
<p>今回、事務事業の中で唯一増えた事業である「かわさき GIGA スクール構想推進事業」。重点事業の1つではあるが、今回の計画の中でも特に重要なものと考えている。GIGA スクール構想を推進するにあたり、短期的にはインフラや端末等の環境整備、中期的には教職員の指導力・方法、長期的には教育データを蓄積による研究や個別最適化が重要と感じている。教職員の指導力については、「教員の ICT を活用した指導力向上に向けて、ライフステージに応じた研修体制を整え、教員をサポートします」と記載のある通り、喫緊の課題として重点的に取り組むことを期待している。データの蓄積や個別最適化については以前から記載があったが、「きめ細かな指導推進事業」に「GIGA 端末導入や学習状況調査の効果を踏まえた有効な指導に向けた研究実践の推進」と、素案にはなかった明文化がなされているのも素晴らしいと感じる。将来の川崎市の教育向上のために、データの蓄積と研究への取り組みを是非期待している。それから子どもの ICT 教育に不可欠な「情報モラル教育の充実」が項目として独立したのも良い形だと感じた。</p> <p>昨今、問題になっている校則については、そもそも「校則」という言葉が1つも入ってい</p>	山田委員

<p>ないことは非常に残念。ただ、「人権尊重教育推進事業」の中に「学校における様々な人権課題に関する周知・啓発」が追加になっているのは大変喜ばしい。この中に校則のニュアンスも含め、周知・啓発が進むことを期待する。</p> <p>「学校運営協議会の運営支援及びコミュニティ・スクールの拡充」で校数が具体化し、かつ令和7年には全校となっていることは大変喜ばしい。期待したい。ただし、ただただ学校数が増えただけでは本来の目的は達成できず、当然中身が重要であるため、子どもや若者の参加など、メンバー構成等の検討を期待したい。</p> <p>今後川崎が、「川崎は教育に力を入れている」「川崎の教育を受けるために引っ越したい」「子どもにも川崎の教育を受けさせたいから川崎に残りたい」と多くの人に思われるような都市になることを期待する。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・国連子どもの権利条約および川崎市子どもの権利条例の視点から、教育プラン第3期実施計画策定に基づく取組を進めていくにあたっては、その都度、子どもの思いや意見を聴き、その内容を反映させていくこと、また反映内容を子どもにフィードバックしていく取り組みが必要です。 ・今回実施した子どもの意見聴取結果を自由記述を含めて分析し、計画に落とし込むべきことは落とし込み、計画の実施、評価検証の各段階で、子どもの参加を具体的にどのように実現できるかを、この推進会議で議題の1つとして議論するべきだと思います。 ・パブリックコメント実施結果の4ページ、「基本政策Ⅰに関すること」意見5については、現在の川崎市の教育現場の課題を指摘する意見で、「本市の考え方」に示された説明では、受け止めが不十分だと思います。 ・12月に意見を申し上げていますが、重ねて、「キャリア在り方生き方教育」の実施のみならず、川崎市子ども会議・行政区子ども会議・中学校区子ども会議をはじめ、市内のあらゆる子ども参加を、学校における学びを实践する場として、それらの取り組みを推進していくことを、基本政策Ⅰに位置付けるべきだと思います。 ・子どもの思い・意見を聴く上では、こちらの教育プランの「子ども版」を作成して公表する必要があります。ぜひこの第3期実施計画から取り組まれてはと思います。 	内田委員
<p>基本政策Ⅱ</p> <p>◆市学習状況調査の結果の活用について。パブコメにも寄せられていたが、学力を常に点数で図られていることは、子どもたちの自己肯定感にマイナスの影響がある面も否定できない。例えば大人も売上だけがその人の能力の全て、教え子の点数だけが指導力の全てではないように、人間的な成長の部分をそぎ落とし、学力ばかりに注目されている感覚を子どもに与えるのは危険。あくまで調査は集団としての習熟度を図る指標に役立つものであり、子ども一人一人を点数化するためのものではないことをよく伝えた上で行われることに留意したい。さらに言えば、調査の問題設定そのものも徐々に見直されてよいとも思う。一問一答のようなものをこなせることが学力と言われる時代から、知識をもとに自ら考えそれを伝える力を</p>	野村委員

学力とする時代へ。そうした能力を図るテストへと設問が工夫されること、集団（平均）に対しての自分の立ち位置で己を知るのではなく、過去の自分に対して今の自分はどうか、一人ひとりの軸で成長度合いを図ること。単純な点数のみならずその伸び方で「わかる授業」が行われているかの評価に役立てる仕組みができたらと思う。

◆GIGA スクール構想では、オンライン授業の質の向上に期待したい。コロナ第5波ではハイフレックスだったために、教室のこどもたちの対応をしながらオンラインのこどもを気にかける先生の様子はいかにも負担が過多だった。また、低学年のこどもにとっては遠隔の参加は一方通行だと退屈でかなり難しかった。オンラインが必要なときには、オンライン対応だけの授業（クラス）を設けるなど、質と負担の両方の問題をクリアできるような工夫を考えていけたら良いと思う。

基本政策Ⅲ

◆支援コーディネーター担当の先生を全校に配置したことは素晴らしい。1校1人から発展させ、ぜひ「児童・生徒数〇あたり1教員」にできないか。大規模校では先生の業務量も多くなっているし、支援を受ける側にとっても質を保つ意味で重要かと思う。カウンセラーについても同様で、小学校は巡回であるために、実際にもお願いしても申し込みから2～3か月後と聞いた。心の問題は命に直結しているので本来は待たないはず。「やっている」と「できている」は違うんだということ、子どもにとって本当に足りているのか、こどもファーストを忘れないこと。支援の手が回らなかったがために何か問題が起きてからでは遅いなと心配している。

◆いじめやヤングケアラーなど、こどもの悩みの把握にもGIGAを活用する視点を。（アプリで簡単に相談窓口にアクセスできたり・・・）周囲に知られることなく楽に専門機関に繋がれるのではないかな。

基本政策Ⅴ

◆教員の働き方改革の1つのTA（ティーチングアシスタント）の導入に期待したい。プリントのコピーや掲示物の貼りだしなど、代われる作業は効率的に対応してもらい、もっとも教員本来の仕事のコアな部分に集中できるようにと願う。また、そうした改革の中で実態把握のため調査も必要になるかもしれないが、負担減のための報告書作りで現場の負担増になるような調査方法にならないよう留意されたい。

基本政策Ⅵ

◆家庭との連携にも児童生徒のGIGA端末をいかす視点を。小学校に入ると幼稚園・保育園時代より保護者同士が顔を合わせる機会が格段に減り、育児で孤立化するのを感じる。コロナで参観や懇談会の中止が続き

<p>昨今は保護者の横のつながりがとくに薄い。オンライン懇談会などのためにも使えるとよい。</p> <p>基本政策Ⅷ</p> <p>◆文化財や博物館などに市民自身が興味を持ちつづけるためには、こどものうちから郷土愛を育てていくほうがよい。例えば各施設の広報の仕事を、学校持ち回りで児童生徒たちに任せてみてはどうか。アイデアを出し、実行し、結果を得ることは、社会と繋がる実践的な取り組み。主体的に関わり、達成感を感じることができると良質な教材になるのではないか。</p>	
<p>2. その他、御意見があれば御記入ください。</p>	<p>委員</p>
<p>・ 1月中に行われた「子どもの意見集約」がどのような結果か、とても興味があります。</p>	<p>岩木委員</p>
<p>図書館への要望が多々寄せられているように感じたが、時代の変化に対応していくことも重要と思われた。人々が集って学ぶ意味での図書館の役割は今後も変わらず重要ではあるが、生涯にわたってあらゆる人々が学ぶ意味では、様々な事情で図書館などに行けない人にも対応していくことが、今後、特に重要ではないか。電子書籍や生涯学習講座のオンライン化など、いつでもどこでも全ての市民が学べるようにしていくことが求められる。全ての川崎市民が学び続けることが、夢や希望を抱き生きがいのある人生につながると感じた。</p>	<p>高橋委員</p>
<p>以前もメールでお願いしていました学校の視察について、コロナ禍で難しい時期であると理解しておりますが、改めてご検討の程よろしくお願い致します。</p> <p>また、安全マップの作成や通学路安全対策会議など、治安・安全に関する行事等で参加に差し支えないものがございましたら、是非視察・参加したいと考えております。その他、教育改革推進会議委員が参加しても差し支えない行事等がございましたら、是非ご案内いただけますと幸いです。</p> <p>今後とも引き続きよろしくお願い致します。</p>	<p>山田委員</p>
<p>・ 国連子どもの権利委員会一般的討議「意見を聴かれる子どもの権利」（2006） https://w.atwiki.jp/childrights/pages/22.html</p> <p>・ 欧州委員会「文書のチャイルドフレンドリー版を作成するためのガイド」 Creating child-friendly versions of written documents: A guide（2021年3月） https://www.qub.ac.uk/research-centres/CentreforChildrensRights/CCRFilestore/Fileupload,1269252,en.pdf （以下、一部訳）</p> <p>年齢にふさわしい（Age appropriate） [やるべきこと]</p> <ul style="list-style-type: none"> － 簡単で明確な言葉および短い文を用いる。 － むずかしい言葉を説明する。 － 例を挙げる。 	<p>内田委員</p>

◆教育プランのPDCAのCに関してパブコメで「教育施策を着実に実行したでは甘い」とのご意見があった。パブコメに寄せられる意見が人口の割にそもそも少ないことから、チェックの強化のためにも、広く意見を寄せてもらいやすい仕組みが必要。GIGA 端末を持つ児童生徒のいる家庭は、それを活用してアンケートに答えてもらうような工夫も可能ではないか。市民の何割がこのプランを知っているのだろうか。地域と家庭の連携のためにも、このプランをまず広報することを心掛け、課題と方向性の共有をしていきたい。年度ごとに1回から2回、このプランを説明する全市共通の動画配信をGIGA 端末で見ってもらうこともできると思う。

◆すべてにおいて子どもが主役ということを中心に留めたい。どんな教育をのぞむのか、子ども自身に尋ねる機会を増やしてはどうか。今回の資料8にこどもの意見集約があったが、アンケートの実施は行政区につき1校ではなく、全校でもよいと感じた。

◆特別支援教育の推進に関連して、就学先の決定（在籍級の変更含む）における透明性についても検討されたい。どのような基礎的環境整備があるのか（学びのインフラの紹介）、1度の決定が固定ではなく本人の成長に応じて柔軟な変更がどの程度許されているのか（前例や条件などの提示）、意向が合致しない場合にはどうなるかなど、正確な情報提供と決定のフロチャートを事前に示すことで、見通しと安心をもって家庭が学びの場を判断しやすいのではないか。学校と子と家庭とが認識のすれ違いなく、初めに足並みをそろえることができることが、支援のスタート。この連携のスムーズさこそが、子どもを取り巻く支援環境にも影響することから、ぜひ検討してほしい。